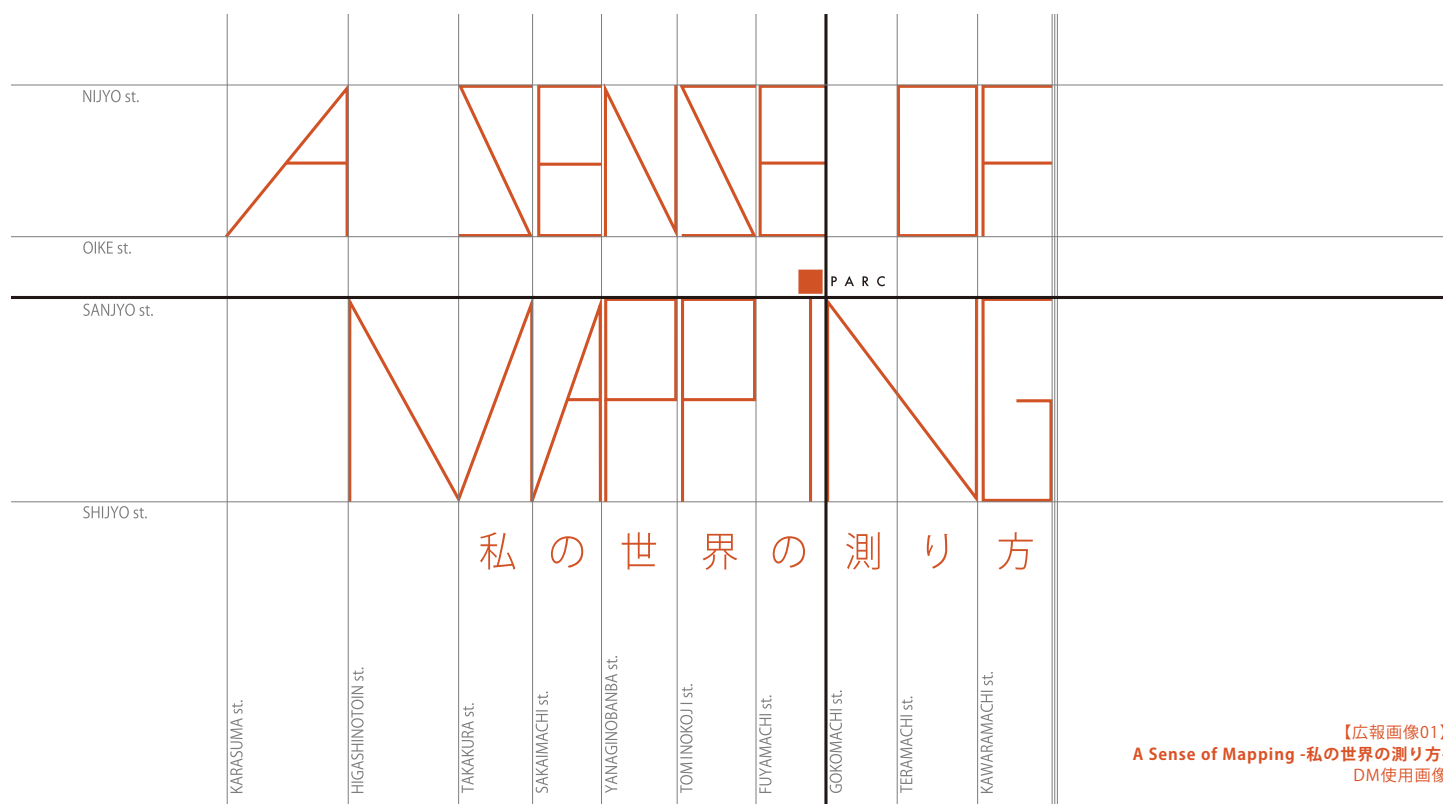


A Sense of Mapping -私の世界の測り方-

松本絢子、山城優摩 企画：森川穰 (ASM実行委員会代表)

MATSUMOTO AYAKO, YAMASHIRO YUMA (MORIKAWA MINORU)

2014年7月29日[火] — 8月10日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



ご案内

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、様々なクリエイション活動へのサポートの一環として、広く展覧会企画を公募し、審査により採択された3名(組)のプランを実施するコンペティション「Gallery PARC Art Competition 2014」に取り組んでいます。2013年末から公募を開始し、応募された44のプランから、審査員・平田剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)、山本麻友美(京都芸術センタープログラムディレクター)の2名を交えた厳正な審査を経て、3つのプランを採択することとなりました。

本シリーズ企画展は、採択された薬師川千晴、むらたちひろ、松本絢子・山城優摩・森川穰の3名(組)による展覧会を2014年7月から8月にかけて「Gallery PARC Art Competition 2014」として3連続で開催するもので、本展はその第三弾となります。

企画：森川穰(もりかわ・みのる／1983年・大阪府生まれ)による「A Sense of Mapping -私の世界の測り方-」は、松本絢子(まつもと・あやこ／1985年・大阪府生まれ)・山城優摩(やましろう・ゆうま／1987年・大阪府生まれ)の2名の作家によるものです。

本展キュレーターである森川穰は2006年に京都精華大学芸術学部洋画専攻を卒業、2007年にChelsea College of Art and Design Postgraduate Diploma Fine Artを卒業の後、おもにインスタレーションによる作品制作・発表を続け、現在は大阪を中心に活動しています。また、2008~12年にはアトリエ兼ギャラリーとして「studio90」の運営(2012年まで)や、2012年のアートラボあいち・常懐荘での「うつせみ」のキュレーションなど、幅広い活動を続けています。

「誰も独自の地図感覚というものがある。目的地に辿り着くまでに何を目印にしているかは三者三様で、その目印を継ぎ接ぎしながら目的地まで辿り着く。松本絢子と山城優摩の作品は、その地図感覚の楽しさを改めて思い出させてくれる。」とする森川の企画による本展は、松本・山城の作品を地図に見立て、そこに新たな風景を見て、新たな視点を体験するものであるとともに、「読まれる絵画」として「地図の絵画的性」へも言及するものです。

2009年に京都精華大学大学院芸術研究科芸術コースを卒業した松本絢子は、「風景を描くことには、写真や映像のような記録性も、地図のような正確さもない。しかし、描く行為は、私とその風景に対峙した時の思いを、やり取りの中からすくい上げてくれるかのようである。」として、風景を前にした時の記憶や感触を丹念になぞり・とどめるかのように風景を描きあげます。2011年に京都精華大学芸術学部造形学科洋画コースを卒業した山城優摩は、「絵画の地の上で時には地図を読む様に捉え図形であり空間でもある形や色彩を探る。その集積によってあの名前のない豊かさを湛えた土地の様に固有の場を画面上に描き出したい。」として、オブジェにも見える半立体の絵画制作をおこなっています。

Gallery PARC Art Competition 2014 #03となる本展では、松本・山城の作品が「地図」をテーマに交わります。また、会期最終日には会場において平田剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)を交えた関連トークイベント:「地図感覚のこと」も開催いたします。

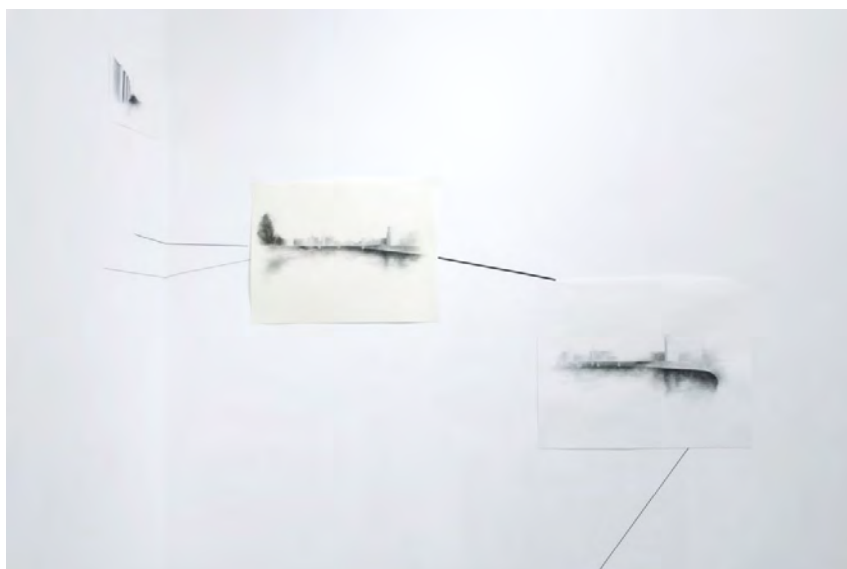
鑑賞者の皆様には、本展において普段見慣れた街並が異なる風景に見える瞬間や、知らない街を散策する時の楽しさといった身体の記憶だけでなく、ドキュメントでもあり絵画にも重なる地図の魅力に気付く機会となるかも知れません。

A Sense of Mapping -私の世界の測り方-

松本絢子、山城優摩 企画：森川穰 (ASM実行委員会代表)

MATSUMOTO AYAKO, YAMASHIRO YUMA (MORIKAWA MINORU)

2014年7月29日[火] — 8月10日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで



【広報画像02】

松本絢子 《点景—6days》(展示風景)

2012 墨、鉛筆、新鳥の子紙/壁にフリーテープで描画
Port Gallery Tでの展示風景



【広報画像03】

山城優摩 《sonar 3》

2012 アクリル絵具、木製パネル
183×177×4.8 cm

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、[【info@galleryparc.com】](mailto:info@galleryparc.com)迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 Gallery PARC Art Competition 2014 #03

A Sense of Mapping -私の世界の測り方-

出品作家 松本絢子 (まつもと・あやこ)、山城優摩 (やましろう・ゆうま) 企画：森川穰 (もりかわ・みのる/ASM実行委員会代表)

関連HP <http://a-sense-of-mapping.tumblr.com/>

松本絢子 <http://ayako-matsumoto.tumblr.com> 山城優摩 <http://yumayamashiro.com> 森川穰 <http://minorumorikawa.com>

会期 2014年7月29日(火) — 8月10日(日) 11:00~19:00 ※月曜休廊・金曜のみ20:00まで開廊・最終日18:00まで

主催 Gallery PARC

料金 無料

展示内容 【地図をテーマとした絵画展】

出品作家に松本絢子・山城優摩、森川穰のキュレーションによる「地図」と「絵画」を巡る二人展。個性的な視点・手法により絵画制作を続ける若手作家の作品から新たな風景・視点を体験するとともに、「見る地図：読む絵画」といった絵画と地図にある関係性にも言及する。会期中にはゲストに平田 剛志 (京都国立近代美術館研究補佐員) を招いたトークイベントも開催。

関連イベント 関連トークイベント：「地図感覚のこと」

8月10日[日] 16:00~ 予約不要・参加無料

出演：平田 剛志 (京都国立近代美術館研究補佐員) × 森川 穰 (本展企画) × 松本 絢子 (本展出品作家) × 山城 優摩 (本展出品作家)

会場 Gallery PARC [グランマール ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル
【Tel&Fax】 075-231-0706 【Mail】 info@galleryparc.com 【HP】 <http://www.galleryparc.com>

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。
三条通・御幸町通の交差点北西角 [グランマール] 店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [ル・グランマール カフェ クラッセ] 2F
【Tel&Fax】 075-231-0706 【Mail】 info@galleryparc.com

A Sense of Mapping -私の世界の測り方-

松本絢子、山城優摩 企画：森川穰 (ASM実行委員会代表)

MATSUMOTO AYAKO, YAMASHIRO YUMA (MORIKAWA MINORU)

2014年7月29日[火] — 8月10日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

松本絢子

<http://ayako-matsumoto.tumblr.com>

1985年 大阪府生まれ
2007年 京都精華大学芸術学部 造形学科洋画コース卒業
2009年 京都精華大学大学院芸術研究科芸術コース卒業

2006年 グループ展 風景のツクリカタ再解釈の方途-(ギャラリーフーロール / 京都)

2008年 個展 超える先の空白 (galerie16 / 京都)

個展 The blight lines (京都精華大学7-23gallery / 京都)

2009年 個展 composed blank (AD&D gallery / 大阪)

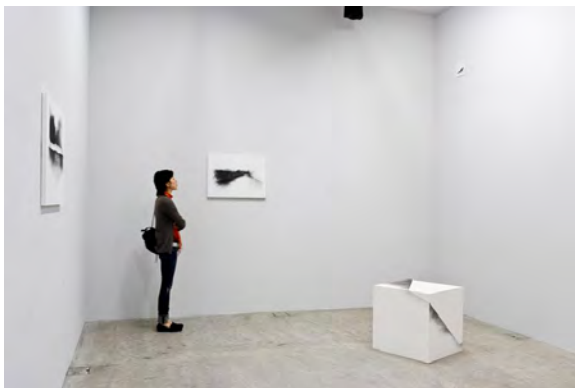
2012年 グループ展 冬の引き出し (Port Gallery T / 大阪)

風景を見た記憶は想像以上に曖昧で、時間が経てば薄れていく。写真や映像は風景の詳細を記録できるが、それはあくまで風景の構造であり、その時の私の意識までは写してくれない。

風景を描くことには、写真や映像のような記録性も、地図のような正確さもない。しかし、描く行為は、私とその風景に對峙した時の思いを、やり取りの中からすくい上げてくれるかのである。空気の厚みや温度、風、音、物の量感や距離感など、その場でしか感じ得ない「感触」を確かめるように、画面に触れていく。

そのように描かれたものを見る事は、また新たな体感を伴っていく。

そして、その感触が新たな記憶としてそれぞれの風景になれば、と思う。



【広報画像04,05】

(上) 点景—6days(部分)

2012 墨、鉛筆、新鳥の子紙 310×230mm

(下) composed blank

2009 AD&A galleryでの展示風景

山城優摩

<http://yumayamashiro.com>

1987年 大阪府生まれ
2011年 京都精華大学芸術学部 造形学科洋画コース卒業

2009年 グループ展 PM12 connect ロンドン—京都学生共同制作展 (京都精華大学 / 京都)

2010年 グループ展 Wave in Space (cubic-gallery / 大阪)

グループ展 ART AND CRITIQUE 2010 -extension- (成安造形大学 / 滋賀)

グループ展 10×10 vector (京都精華大学 / 京都)

2011年 グループ展 京都精華大学卒業修了制作展 (京都市美術館 / 京都)

2012年 グループ展 視域 — A field of vision — (京都精華大学 / 京都)

グループ展 懐 (常懐荘 / 愛知)

岸本沙央梨 × 山城優摩 Influence -差響する「J」- (ギャラリーフーロール / 京都)

2013年 グループ展 科学のあとに詩をかくこと (京都精華大学、galerie 16 / 京都)

グループ展 主張てん (gallery ARTISLONG / 京都)

2014年 グループ展 HUB-IBARAKI ART COMPETITION (茨木市クリエイティブセンター / 大阪)

作品を構想する時、私は身近な土地を徒歩や自転車で巡りながら思考する。

そうしていると普段生活する上では気にも留めない退屈な景色に不意に心引かれる瞬間がある。鬱蒼とした茂み、僅かにずれて並ぶ杭や開けた解体跡地、都市の中で別段みる物のないとする景色で様々な要因が積層し思わぬ変形を遂げた豊かな場として表れる。

絵画の地の上で時には地図を読む様に捉え図形であり空間でもある形や色彩を探る。

その集積によってあの名前のない豊かさを湛えた土地の様に固有の場を画面上に描き出した。



【広報画像06,07】

(上) sonar 1

2011 アクリル絵具、木製パネル 161×82×6 cm

(下) reflection 2

2012 アクリル絵具、木製パネル、ニス 181×159×23 cm

A Sense of Mapping -私の世界の測り方-

松本 絢子、山城 優摩 企画：森川 穰 (ASM実行委員会代表)

MATSUMOTO AYAKO, YAMASHIRO YUMA (MORIKAWA MINORU)

2014年7月29日[火] — 8月10日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

森川 穰 (企画者)

<http://minorumorikawa.com>

1983 大阪生まれ
2006 京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻卒業
2007 Chelsea College of Art and Design Postgraduate Diploma Fine Art 卒業
現在 大阪を拠点に活動中

2013 グループ展「Common Sense of the East」(Gallery175/ソウル、韓国)
2013 二人展 NO x 森川穰「ROOTS」(VADE MECVM./大阪、日本)
2013 グループ展「IPP#1」(ロシア現代史博物館/モスクワ、ロシア)
2012 グループ展「うたかた」(アートラガあいち/愛知、日本)
2012 グループ展「うつせみ」(常懐荘/愛知、日本)
2012 グループ展「IPP#0『風景の逆照射』」(ギャラリーフール/京都、日本)
2011 グループ展「第24回UBEビエンナーレ」(ときわ公園/山口、日本)
2011 二人展 柏原えつとむ|森川穰「Silencer」(天地) (studio90/京都、日本)
2010 グループ展「BIWAKOビエンナーレ2010」(近江八幡/滋賀、日本)
2010 個展「雨の降るを待て」(studio90/京都、日本)
2010 個展「確かなこと」(京都芸術センター/京都、日本)
2008 個展「彼の地」(studio90/京都、日本)

関連トークイベント：「地図感覚のこと」

8月10日[日]16:00~ 予約不要・参加無料

【出演】

平田 剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)

×

森川 穰(本展企画)

×

松本 絢子(本展出品作家)

×

山城 優摩(本展出品作家)

「A Sense of Mapping -私の世界の測り方-」

企画：森川 穰 (ASM実行委員会代表)

例えば初めて訪れる土地のことを考える。私は方向音痴なので、何度も迷子になり、何度も人に尋ねてようやく目的地に辿り着く。しかし最近スマートフォンで地図アプリがあるので、初めての道でも目的地にまっすぐ向かうことができる。おかげで時間や体力は温存できるのだけど、なんだか物寂しさを感じる。知らない道に出た時のドキドキ、思いがけない風景に出くわした時のワクワク、道を尋ねる時の地元の人とのやりとり。そんなささいな出来事は、ガジェットとにらめっこしながら歩いていると出逢うことはできない。それまで自分の頭の中で継ぎ接ぎしていた地図はやがて消えてしまった。

松本絢子と山城優摩の作品は、地図の原初的な在り方を再び思い起こさせてくれる。松本は、実際に見た風景を、自分の記憶や意識によって慎重に再構成するようなドローイングを制作している。そこに立ち現れた風景は、写真などでは表現され得ない匂いや空気や音までも想起させる。山城の作品は、一見何が表現されているのかわからないオブジェ(または半立体)なのだが、私にはアプリで見た街の鳥瞰図が、改めてごちゃまぜにされている印象を受ける。ごちゃまぜにすることで見えてくる新たな風景が新鮮に目に焼き付いてくる。

また彼らの作品を地図と見立てた時、地図の絵画性というのも思い起こさせる。それは常に「描かれている」にも関わらず、人々はそれを絵画とは認識しない。地図は鑑賞の対象ではなく、読まれる対象としての平面である。しかし、時が経ち、街並も変わればそのアクチュアリティは失われ、一転歴史資料となり、博物館等で鑑賞される対象となる。それでは「読まれる絵画」というのも存在しえないだろうか。例えば絵画を横に寝かしてみる。光に透かしてぼんやりと眺める。鑑賞方法を少し変えるだけで見えてくる絵画の多面性もこの展覧会で表現したい。

二人の作品を見た後の帰り道、地図アプリはしまって、自分の継ぎ接ぎだらけの地図を作りながら歩いてみれば、いつもの道でも新たな発見があるかもしれない。

